

日本大学 vs 東京農業大学

11月15日(土)
11:30K.O.
東学大G

前節の勝利で残留を決定づけた日大と、逆に前節の敗戦により3年ぶりの東京都リーグ降格が決まってしまった東農大との対戦。どちらも、一つでも順位を上げるため、また来季に向け、良い形でシーズンを終えたい。

日大は前節、日体大と対戦し、2-0で勝利して降格の危機を乗り越えた。ようやく連敗を6で止めると同時に、実に8試合ぶりの勝利となった。勝たなければ厳しい状況に追い込まれる立場ではあったが、「守備からしっかりやろうという1週間を過ごしてきた。それが試合に表れてよかった」と川津博一監督が話したように、日体大にボールを持たれながらもゴール前でしっかりと対応し、決定的なチャンスを作らせなかった。逆に、攻撃では少ないながらも徹底してサイド攻撃を仕掛け、54分、75分に得点を奪った。攻撃にかかった際には、前線の3枚、4枚がうまく絡んでチャンスを作るなど、好調時のリズムを取り戻してきたようだ。「ようやく本来のパフォーマンスが出せた。これを継続し、今日以上の内容で終えたい」(川津監督)。

一方の東農大は前節、残留を争う平国大との直接対決で0-1の敗戦。最終節で平国大と産能大が対戦するため、東農大の11位以下が決定してしまっただけに、その中で自分たちの形をどれだけ作れるかが鍵。「持ち味を出し切って終わりたい」(檜山監督)。

その前の試合で敗れ、緊張感と意気込みが相まった難しい試合は、お互いにリスクを少なくシンプルに相手ゴールを目指す展開に。その中でなかなかシュートシーンを作ることができず、45分に許した1点に泣いた。「今季を象徴するように、大きなチャンスで点を取れなかった。結果的には前半終了間際の1点が痛かった」(秋吉保浩監督)。復帰から2年で東京都に逆戻りとなったが、来季につながる何かをつかむ試合としたい。

<前期の対戦>日大1-1東農大

日大		東農大	
4. 高橋	9. 宇都宮	13. 岡庭	17. 徳田
30. 梓	10. 小林	15. 小田原	25. 金
1. 谷	14. 成瀬	12. 榊原	21. 松尾
	13. 中野	14. 石川	10. 浜田
3. 奥村	19. 高山		5. 櫻岡
	7. 廣田	8. 佐々木	3. 加藤
29. 高田			

東洋大学 vs 東京学芸大学

11月15日(土)
13:50K.O.
東学大G

わずかながら昇格の可能性を残す東洋大と、残留は決まっているが一つでも順位を上げたい東学大との対戦。東洋大は、他会場の1試合目で法大が引き分け以上となればその時点で昇格の可能性が潰れるが、法大が敗れた場合はその得失点差を上回る大量得点で勝利すれば昇格権を手に入れることができる。試合前の時点で状況が変わるが、前期7位から追い上げてきた力を見せたい。

その東洋大は前節、青学大と2-2で引き分けた。2点を先行されながら追い付き、昇格への執念を見せたが、「勝点3を取ることが重要だった。勝ち切れず重い結果になった」(古川毅監督)というのが正直なところだろう。その前の試合で連勝が途切れ、昇格のためには負けられないという気負いがあったのか、前半は守備に不安定さが目立った。しかし、後半はリスクを負いながら攻めて2点を奪い、さらに2度のPKのピンチも凌いで勝点をもぎ取ったという面では、7位からの追い上げが決して勢いではないことを示したとも言える。「昇格の可能性が残る限りそれを目指したい。仮にそれが不可能になっても、戦う姿勢を見せたい」(古川監督)。

一方の東学大は前節、降格の危機が目前にあった産能大に0-2で敗れてしまった。序盤は拮抗した試合展開

の中、やや優勢に進めたが「最後の崩しや突破のところでミスが出て、なかなか得点を決めることができなかった」(檜山康監督)。後半は相手にボールを奪われ展開を許す場面が増え、56分、80分に失点。残留への執念を見せてきた相手に押され、反撃はならなかった。今節も場合によっては昇格がかかる東洋大との対戦となるだけに、その中で自分たちの形をどれだけ作れるかが鍵。「持ち味を出し切って終わりたい」(檜山監督)。

<前期の対戦>東洋大0-1東学大

東洋大		東学大	
3. 筑井	9. 川森	18. 久保	5. 廣木
5. 田口	15. 小山	10. 佐々木	4. 脇本
1. 浅沼	20. 仙頭	8. 菅	1. 須賀
	18. 遊馬	7. 平田	
4. 郡司	7. 斉藤	9. 山田	3. 安藤
	10. 平石	11. 五十嵐	
16. 石坂		2. 吉田	

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.22

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



最終節、昇格は4チームに可能性!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは、ついに1年間の総決算の時を迎えた。前節、関学大が法大に0-2で敗れて法大が首位に立ち、今節引き分け以上で自力優勝・1部昇格を決めることになった。敗れた関学大は今節、拓大に5-1と大勝した神大と対戦し、勝ったほうが昇格権を獲得。引き分けの場合は関学大が、また引き分けで法大が敗れていた場合は両チームが昇格を決める。前節青学大と2-2で引き分けた東洋大は、法大が敗れ、大量得点で勝利して法大を得失点差で上回った場合に昇格を手繰り寄せる。一方、日大が日体大を2-0で破って残留を決

得点ランキング		アシストランキング	
11: 遊馬 将也 (東洋大)	将也 (東洋大)	12: 伊東 純也 (神大)	純也 (神大)
星子 直哉 (平国大)	直哉 (平国大)	8: 仙頭 啓矢 (東洋大)	啓矢 (東洋大)
10: 菅沼 優聖 (関学大)	優聖 (関学大)	大森 勇希 (拓大)	勇希 (拓大)
9: 星 広太 (神大)	広太 (神大)	6: 恵 龍太郎 (青学大)	龍太郎 (青学大)
伊東 純也 (")	純也 (")	成瀬 琢斗 (日大)	琢斗 (日大)

めたが、平国大に0-1で敗れた東農大は降格が決定してしまっただけに、その中で自分たちの形をどれだけ作れるかが鍵。「持ち味を出し切って終わりたい」(檜山監督)。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第21節終了時。上段が前期の対戦結果、白抜き順位は確定)

順位	2部	法大	関学大	神大	東洋大	青学大	拓大	日体大	日大	東学大	平国大	産能大	東農大	勝数	負数	分数	得点	失点	得失	勝点
1	法大		1●2 2●0	1●3 3●1	2●0 2●3	2△2 3●1	3●0 1●0	0△0 11/15	4△4 2●1	2●0 3●1	0△0 1●2	2△2 2●0	1●0 3●0	12	4	5	40	22	18	41
2	関学大	2●1 0●2		3●2 11/15	1●2 2●0	1●4 2△2	2●0 1●0	0△0 0△0	1●0 4●2	3●0 3●0	5●0 0●1	3△3 1●0	2●1 2●1	12	4	5	38	24	14	41
3	神大	3●1 1●3	2●3 日体大G		0●1 1●2	2△2 3●2	4●0 5●1	0△0 3●1	1●0 3●2	3●1 1△1	5●3 1●2	4●0 1●0	3●0 1△1	12	5	4	47	26	21	40
4	東洋大	0●2 3●2	2●1 0●2	1●0 2●1		1△1 2△2	0●2 2●4	1●2 3●1	0●1 2●0	0●1 11/15	3●2 2△0	4●0 4●1	1●0 3●0	12	7	2	36	25	11	38
5	青学大	2△2 1●3	4●1 2△2	2△2 2●3	1△1 2△2		3△3 11/15	2●0 2●1	2●1 1●3	0●2 1●0	1△1 1●0	0●1 1●0	3●0 2●1	9	5	7	35	29	6	34
6	拓大	0●3 0●1	0●2 0●1	0●4 1●5	2●0 4●2	3△3 産能大G		2●0 2●1	2●0 0△0	0●3 4●1	5●0 2●0	1●0 0●1	1●0 1△1	10	8	3	30	28	2	33
7	日体大	0△0 日体大G	2△2 0△0	0△0 1●3	2●1 1●3	0●2 1●2	0●2 1●2		0△0 0●2	1●0 0●2	2●1 3●1	4●1 2●1	1△1 2●1	7	8	6	23	27	-4	27
8	日大	4△4 1●2	2●4 0●1	0●1 2●3	1●0 0●2	1●2 3●1	0●2 0△0	0△0 2●0		2●0 3●1	0●2 0●1	3●0 1●2	1△1 11/15	6	11	4	26	29	-3	22
9	東学大	0●2 1●3	0●3 1△1	1●3 1△1	1●0 東学大G	2●0 0●1	3●0 1●4	0●1 2●0	0●2 1●3		3●2 2●0	1△1 0●2	0●1 1△1	6	11	4	21	31	-10	22
10	平国大	0△0 2●1	0●5 1●0	3●5 2●1	2●3 0●2	1△1 0●1	0●5 0●2	1●2 1●3	2●0 1●0	2●3 0●2		4●6 11/15	0●1 1●0	6	13	2	23	43	-20	20
11	産能大	2△2 0●2	3△3 0●1	0●4 0●1	0●4 1●4	1●0 0●1	0●1 1●0	1●4 1●2	0●3 2●1	1△1 2●0	6●4 産能大G		0●5 1●3	5	13	3	22	46	-24	18
12	東農大	0●1 0●3	1●2 1●2	0●3 1△1	0●1 0●3	0●3 1●2	0●1 1△1	1△1 1●2	1△1 東学大G	1●0 1△1	1●0 0●1	5●0 3●1		4	12	5	19	30	-11	17

前節のifで、日大の残留決定条件の表記に間違いがありました。また、東学大は試合開始前の時点で残留が決定していました。お詫びして訂正いたします
予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

どうせなら、勝って泣きたい。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



法政大学 vs 日本体育大学

11月15日(土)
11:30K.O.
日体大G

一気に優勝候補に躍り出た法大と、今季の7位が決まった日体大との対戦。法大は、引き分け以上で昇格(2位以上)を決め、神大・関学大の結果に優勝がかかる。敗れても、神大・関学大が引き分け以外であれば昇格権を手に入れる可能性が高いが、しっかり勝って優勝をほぼ手にしたい。逆に日体大は前節、残留争いの渦中にいた日大に敗れた。昇格・残留争いに絡む相手のモチベーションを前に、今節はどれだけ力を出せるか。

法大は前節、関学大との天王山を2-0で制し、ついに首位の座に立った。得失点差でも並んでいた関学大を下し、4点差をつけたことは大きい。この試合で引き分け以上であれば5年ぶりの1部昇格が決まるが、あくまで目指すのは優勝だ。関学大戦は、前半は相手にシュートを1本も打たせずスコアを見る限り快勝だったが、長山一也監督は「納得のいく内容ではない。もっとやってほしかった」と苦言を呈した。後半開始直後の隙を突かれて相手に猛攻を許し、GK富澤雅也(3年)の好守で危うく難を逃れるシーンが続いたからだ。大きな目標を自力で引き寄せられる状況を楽しめるかどうか。

対する日体大は前節、残留を目指す日大に0-2で敗れた。「ボールは持たせてもらえたが、最後の崩しがで

きなかった」(倉又寿雄監督)という試合は、支配率が高いながら得点を決められないうちに守備が我慢し切れず失点を喫するという、今季を象徴するような内容となってしまった。3年ぶりに戻ってきた2部リーグは7位が決まった日体大。今季、上位チームとは11戦で1勝しかしていない(4引き分け)。最終戦、目の前での昇格決定を阻止するためにも、ホームで好ゲームを見せたいところだ。

<前期の対戦>法大0-0日体大

法大	日体大
2. 永戸	26. 福田
6. 星	11. 小山
22. 田代	20. 高野
25. 西室	25. 輪笠
21. 富澤	7. 長谷川
10. 高橋	1. 伊藤
5. 山口	27. 岩城
3. 宗近	23. 小泉
8. 三田	29. ンドカ
27. 山田	10. 阿部
	2. 高野

産業能率大学 vs 平成国際大学

11月15日(土)
11:30K.O.
産能大G

11位の産能大と10位の平国大、残留を賭けての一番だ。前節で勝利を収めた両チームは、今節の直接対決で勝てば10位以上となり、残留を決めることになる(引き分けの場合は平国大が残留)。初の関東リーグ挑戦となった産能大が最後に逆転残留を決めるか、ここ2年も最終節で勝って自力で残留を決めてきた平国大が今季も残るのか。前期も壮絶な打ち合いを演じている両チームの今季最終戦は、最後まで目が離せない。

産能大は前節、東学大を2-0で下した。負ければ降格が決定してしまうという土壇場で連勝した底力は、加藤望監督が言い続けたように、初の関東リーグで1試合ずつ経験と反省、そして改善を積み重ねてきたものが発揮されたと言っていいだろう。第20節は85・86分という終盤の粘りの得点だったが、前節は前半は相手の攻撃に耐え、56分と80分にしっかり相手を崩して得点を奪った。加藤監督も「自分たちから攻撃も守備も仕掛けられ、粘り強くできた」と褒めたが、「次で勝ってこそ今年やってきたことが報われる。戦いに行くという自覚がまだ足りない」と苦言も。勝って関東の座を守れるか。対する平国大は前節、東農大との残留を争う直接対決を1-0で制した。お互いに慎重な立ち上がりではあつ

たが、「2試合連続で無得点だったので、早い時間帯で試合を動かしたかった」(西川誠太監督)という平国大が45分に先制。後半は身体を張った守りで勝点3をもぎ取ったものの、相手が攻撃に出てくる中で追加点を奪えなかったことは課題で、「疲れてもどれだけ質を保ってプレーできるか、もう少し丁寧になりたい。最後まで緊張感のある試合をしたい」(西川監督)。

<出場停止>浜下瑛(産能大)

<前期の対戦>産能大6-4平国大

産能大	平国大
6. 遠藤	3. 竹内
12. 齋藤	27. 堀越
4. 楠元	5. 小松崎
26. 桜井	22. 横瀬
1. 森谷	9. 星子
14. 須永	6. 鎌田
10. 見留	21. 馬屋原
32. 木下	7. 尾林
19. 石渡	10. 堀越
9. 越智	2. 増田
30. 葛西	25. 玉田

神奈川大学 vs 関東学院大学

11月15日(土)
13:50K.O.
日体大G

3位の神大と2位の関学大、昇格切符を賭けた直接対決だ。同会場1試合目の法大の結果も微妙に関係してくるが、どちらにしても勝ったほうが昇格を決めるサバイバルマッチ(法大が敗れた場合、引き分けで両チームが昇格)。3年ぶり1部復帰となる神大か、初の1部昇格となる関学大か。前節の結果は対照的だが、1年の戦いを見れば甲乙つけがたい活躍を見せてきた両チームだけに、拮抗した試合となるのは間違いない。

神大は前節、出場停止者2名を抱えながら、拓大に5-1で大勝した。松永道敬総監督が「法大戦後、前を向いて点を取るだけ考えようと再確認した」と話したように、その前の試合で法大に2点差をつけられ敗れており、この得点ラッシュは得失点差の面でも大きなアドバンテージを得ることとなった。試合開始1分でいきなり先制点を奪い、相手が立て直しを図る前に前半だけで4得点。後半は拓大に攻められるシーンも増えたが、大量リードを奪ったことで警告が溜まっていた選手の早めの交代を優先し、1失点に抑えた。独走した前期の勢いが戻りつつあるが、先手を取れるかが鍵だ。

一方の関学大は前節、法大との直接対決を0-2で落としてしまった。後期は第13節終了時から首位を走り、

勝てばチーム史上初の1部昇格と2部優勝を決めるという状況で硬さがあったのも事実のようだ。前半は相手の攻撃に対して全体的に引き過ぎてしまい、反撃もシュートまで結びつかなかった。石村大監督が「勝負の分かれ目だった」と話した後半開始直後の猛攻で1点を決め切れず、直接FKで先制を許して流れを奪われた。本格的な昇格争いも初の関学大だが、積み重ねてきた力は十分に持っている。最後の1試合でその力を見せたい。

<前期の対戦>神大2-3関学大

神大	関学大
3. 高木	2. 吉田
11. 星	16. 木村
4. 藤原	22. 井上
16. 武田	19. 山口
1. 阿部	23. 長谷川
10. 伊東	7. 太田
9. 郡司	1. 井田
6. 前田	18. 萱沼
5. 杉山	3. 原島
32. 岡田	8. 普光院
7. 長野	4. 久保

拓殖大学 vs 青山学院大学

11月15日(土)
13:50K.O.
産能大G

6位の拓大と5位の青学大との対戦。昇格争いを繰り広げてきた両チームだったが、完全にその可能性は断られた。今節はシンプルに、順位的な上位を争う戦いとなる。お互いに攻撃的な特徴を持ち、前期も譲らない点の取り合いを演じてきた両チーム。最後に、自分たちの特徴を発揮し結果につなげるのはどちらか。

拓大は前節、神大と対戦して1-5で敗れてしまった。試合前の時点で昇格の可能性がなくなった拓大に対し、神大は試合開始直後から昇格への執念を見せ、いきなり開始1分で先制点を奪われ、その勢いに押されるまま前半だけで4失点を喫してしまった。それでも後半は反撃を見せ、シュート数では引けを取らなかったものの、やはり前半の大量失点が重すぎた。「相手に対するプレッシャーが甘かった。後半はコンビネーションで崩すことができた。最後は勝って終わりたい」(玉井朗監督)。前期も4失点を喫した神大戦。5失点は今季最高ではあるが、内容的には前期の対戦に比べ成長した姿を見せた。最後の試合は、拓大らしい攻撃を見せたい。

対する青学大は前節、東洋大と対戦し2-2で引き分けた。昇格に向けて最後の執念を見せてきた東洋大に対し、前半はポゼッションで優位に立ち、狙い通りのサイ

ドアタックで先制。しかし、直接FKも含め2点のリードを奪いながら、また後半も2度のPKのチャンスを得ながらそれを逃し、後半に2点を許して勝ち切ることができなかった。リードを守り切れず2-2で引き分けというのは2試合連続で、「追い付かれてドローだったことに今季が集約されている」(宮崎純一監督)。最後まで運動量を落とさず戦い切れるか。「勝負を決めるプレーで結果を出すということを徹底したい」(宮崎監督)。

<前期の対戦>拓大3-3青学大

拓大	青学大
13. 新山	6. 服部
7. 大森	10. 関谷
6. 紙谷	25. 水島
11. 西岡	18. 山田
10. 柴田	32. 室井
1. 夏井	8. 伊藤
26. 小島	1. 高橋
17. 菊野	29. 上村
18. 河野	3. 御牧
22. 多田	11. 恵
33. 池田	16. 諸井